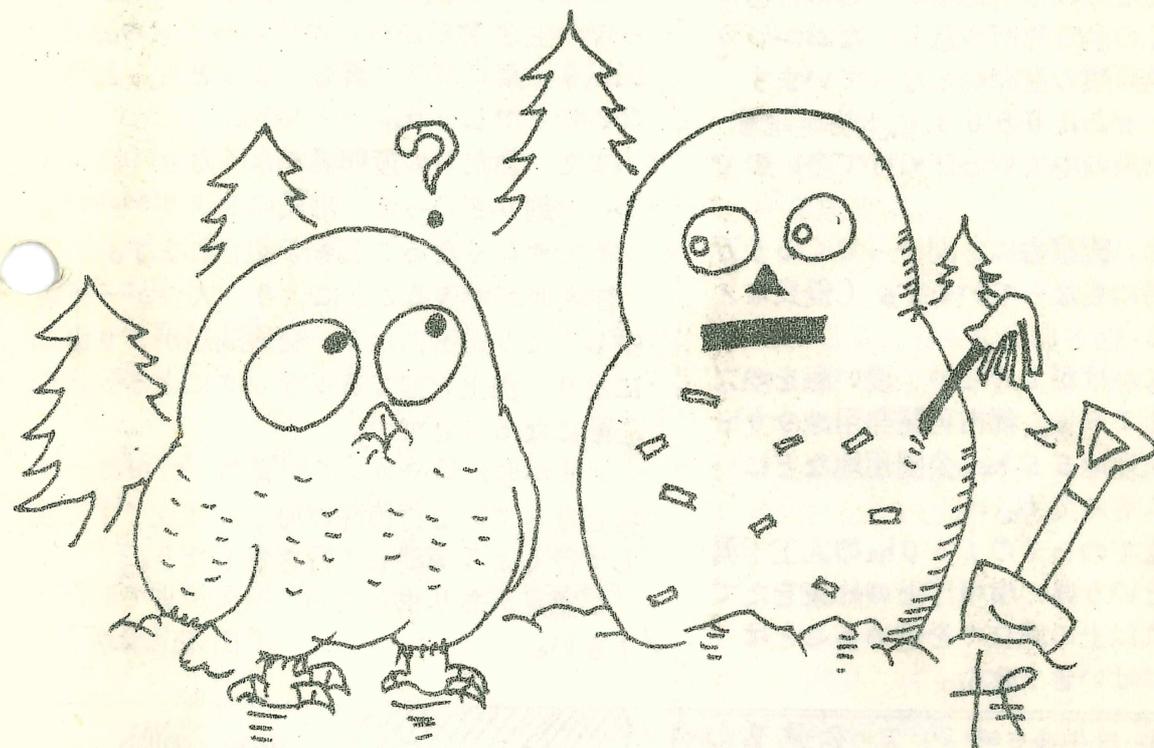


すずかも通信 23

1984.2.1



春よ来い

早く来い

歩きはちめた

みいちゃんが

赤い鼻緒の

ちよちよはいて

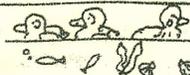
おんもへでたいと

まっている

(日本童謡)

<イラスト 市川拓>

5万羽のスズガモと5千トンもの生き物(魚貝類)を守るう!



東京湾奥部でわずかに埋め立てから残った浅い海である行徳海岸沖の680haを千葉県企業庁と市川市は埋立てようとしています。(スズガモ通信No.22資料)

1万haもの干潟を埋立てられた東京湾は人口の集中化もあり富栄養化が進み以前の豊かな海が失なわれつつあるがこの行徳沖の海には多くの生き物が生息しなおかつカレイなどの魚貝類の産卵場となつていますこの場所は1㎡あたり500gの生物生産量があり東京湾の中でもとびぬけて多いのです。

またここは観察舎に冬期やってくる5万羽ものエサ場にもなっています。(優良なノリ場でもある)

このようにかげがえのない浅い海を埋立てて住宅地175ha。都市再開発用地90ha。下水道終末処理地55ha。公園用地などにしようというものです。

浦安の埋立てのときの150haの人工干潟を造成するという県の環境庁との約束をたてにして、これ以上の埋立てを進めることは認めるわけにはいきません。

もしやるのであれば150haの干潟はそれのみで行うべきで埋立てと抱き合わせにするべきではありません。

また計画のような場所で干潟を作っても人工なぎさにしかならず生き物のための干潟はできそうにありません。

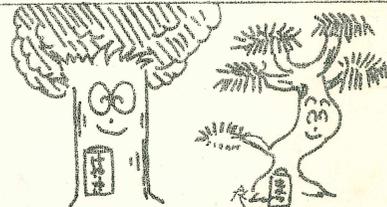
埋立てのために海底から砂をとることによって生き物の住めない深いヘドロの海底が広がり東京湾の水質ももっとも悪くなることでしょう。

また魚たちの産卵場がなくなりカレイやハゼ釣りといった市民のリクリエーションもできなくなることも予想されます。

住宅地ができることにより人口が一層集中してより過密になり交通問題がより深刻になり残土を捨てるトラックによる公害も心配になることです。

ノリが取れ貝やカレイが育ちカモのエサ場となっている行徳沖の海を埋立てずに残して行くよう運動して行きましょう。

ご意見がありましたら田久保までお伝え下さい。(田久保晴孝)



また調査の結果は国土の保全を考えるうえで貴重な資料になっています。

三回目を迎える「緑の国勢調査」では自然環境の状態を知るうえで目安となる「環境指標生物」や「身近な生物」をあらかじめ選定しています。これらの生物を広く国民の参加と協力を得て見つけてもらい情報化するのが大きな特色です。皆さんから寄せられる「緑の便り」が日本の自然環境地図をつくる基礎となります。ぜひご参加下さい。

「緑の国勢調査」に興味のある方は応募案内書が観察舎にありますのでご来所の際に申し出て下さい。

毎月2日(旺)日午後5時より 友の会連 密会 となつてもご自由に参加できます。

○「緑の国勢調査」に参加しませんか 緑を守る育てる創る。私たちはこのことに強い関心を持たねばなりません。

緑は植物の色あいを意味していますが今では樹木など植物そのものを表しています。さらに私たちは植物によってはぐくまれる動物をも含めて生命あるものを緑の問題としてとらえようとしています。

このようなことから環境庁が実施している「自然環境保全基礎調査」は「緑の国勢調査」と呼ばれています。

「緑の国勢調査」は昭和48年度に第一回の調査を行って以来おおよそ5年ごとに実施しています。

第一回は植生に第二回は動物に重点をおいて調査しました。こうして日本の自然環境の概況が次第に明らかになりつつあります。

—あなたのお名前は?(ご紹介しませう)—

No.2

○ツルギ

春のシギチの渡りの先発隊として一番とともにまもなく我行徳にもその姿を見せてくれます。漢字では「鶴鷗」と書きます。タンチョウと同じ色の脚をしているからかその姿かたちから由来は定かではありません。英名は「Spotted Redshank 斑点のある赤い脚」という意味です。学名は「Tringa erythropus 属名のTringaはギリシア語のtringas(クサンギ)が語源で種小名のerythropusはギリシア語のerythros(赤)とpous(脚)の複合語です。「赤い脚をしたクサンギ」という意味です。

行徳では保護区よりも妙典の方へ先に現われるようです。渡り初めの頃はまだ冬羽をしています。やがて華麗な黒のドレスに着替え穏やかな陽射しの中にたずむ姿が見られるでしょう。

暖かい日を選んで故歩がてら妙典まで一足早い春に出会いに出かけてはいかがでしょう。

○オオジュリン

保護のアシ原が黄金色に変る頃北国から寒さを避けて行徳を訪れる小さな旅行者の一人です。

○毎日がバードウォッチング

長野県 佐久市 小林広幸

昨年9月長野へ転勤してからというもの毎日身近な鳥達を双眼鏡なしで見えています。探鳥会では人気のないスズメですが良く見ていると面白いものです。

10月ホームグラウンドでの探鳥を終えて帰宅途中に電線にとまるスズメの群の中にニュウナイスズメ(♂)が1羽混じっていました。いつも見逃しがちなスズメの群も改めて見ると意外な鳥が混じっている事があるのです。この日4年ぶりにエゾビタキを見てしまったのです。カンゲキ!

遠出しなくてもホームグラウンドにて身近な鳥をじっくりと観察できるというのが唯一誇れることでしょうか。

漢字では「大寿林」と書きます。鳴声が「ジュリン」と聞こえたところから「オオジュリン」と名付けられたそうです。

漢字のほうはおそらくあて字でしょう。何ともおめでたい字をあてたものです。

英名は「Reed Bunting」といいます。Reedはアシ原 Buntingはオシロのことです。学名は「Emberiza schoeniclus」属名のEmberizaは古ドイツ語のEmberitz(ホオジロ)のラテン語化したもの種小名のschoeniclusはギリシア語のschoeniclos(沼や川のほとりに住む尾を動かす小鳥)が語源です。

オオジュリンの夏の夏羽は何と不思議なことに冬羽のなかに隠れているのです。夏になると羽が抜け換るのではなくすくすく切れて冬羽の中から夏羽の黒い頭が出て来るのです。もし保護区内の本土を歩いたことがありましたら耳をそばだてて「ジュリン」という声を確かめてみて下さい。(荒井八太)

○参考資料

- 「鳥の学名」 内田 清一郎著 ニューサイエンス社
- 「野鳥の辞典」 清峰幸保著 東京堂出版



これからも珍鳥ブームに振りまわさず地道に観察を続けたいと思います。鳥達が中心場所が年々減りつつあり残念です。 1984・1・23

—12月11日 新浜探鳥会感想文—

初めて行徳新浜にやってきました。くもり時々小雨時々晴 昼頃新浜に住むというセイタカシギ6羽を見た。2羽の新4羽の今年仔のようである。一家打揃った昼飯への散歩と見えた。干潟のエサを漁ながら一団となって上手に赤い脚で器用歩いて行く様 大変印象的でした。

(豊島探鳥会 藤野米吉)

○恒例となりました 元旦の行事初日の出を見る会 多数のご参加をいただき
 ありがとうございます。 観察舎での甘酒等のサービスに対し皆さまからの 心
 のこもったご寄附をいただき ありがとうございます。
 当日の収支報告をさせていただきます。

寄附金総額	14,676-
支出金	
モチ 1Kg	$640 \times 8^2 = 5,120$
あずき 300g	$240 \times 10^2 = 2,400$
酒カス	$108 \times 8^2 = 864$
砂糖 1Kg	$225 \times 5^2 = 1,125$
合計	¥9,509-
差引計	¥5,167-

○他に行徳ラジオ体操会様から モチ 4Kgのご寄贈をいただきました。
 ○残高 ¥5,167-は勝手ながら 友の会一般会計の方へ繰入れさせていた
 だきます。 宜敷ご了承ください。(事務局)

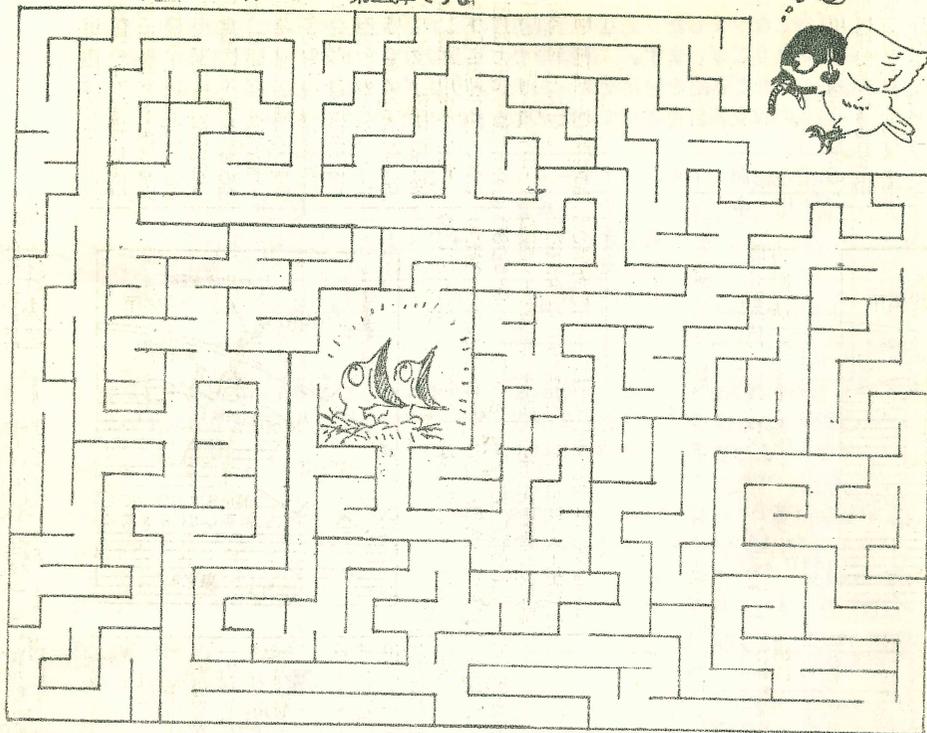
1月1日の行事には 約150名の方が 漁岸にみこられた。昨年とちがい、たくさん
 のスズカで 頭の上まとい、鈴の音(サワ、サワという羽音)をきくことができた。芋目も
 すばらしく、寒い中みこられた方は満足したようでした。観察舎では、蓮屋エンや大
 岡さんたちがついた、おしろいや甘酒で、冷えた体が、体の中からあたたま
 ることかできた。皆さんから 褒められていました。来年もどうぞ (はるなか)

284 1/8 茶臼山自然観察会
 でみこれた鳥 (秋水路、妙興寺川)

1	オイソギ	3	21	バク	9
2	ウグ	6	22	オオバク	5
3	ゴイサ	6	23	ミナドリ	130
4	クササ	4	24	クササ	7
5	コササ	12	25	ハササ	389
6	アササ	6	26	アササ	18
7	マカモ	5+	27	イナ	3
8	カルガモ	270	28	セイウチ	21
9	コガモ	307	29	コガモ	96
10	ヨシガモ	8	30	セグロガモ	10+
11	オソガモ	12	31	キバト	15
12	ヒトリガモ	650+	32	コミズク	1
13	アササ	1	33	ヒバリ	6
14	オオカモ	2900+	34	ハクセキ	6
15	ハシロガモ	70	35	クササ	5
16	ホシロ	10	36	ヒバリ	15
17	セグロハシロ	150	37	モズ	5
18	スズカ	(5000+)	38	ツグミ	150+
19	チウヒ	2	39	シロウビ	6
20	キム	4	140	ウグ	5

など 52種類も観察されました。

ご好評(?)にお答えして 第二弾です。



一鳥ニュースー (鳥の国から)

○去年と同じく スズガモ君さっぱり落ちてくれません。 12月11日から消えて 何度か群れが入ったものの 12月30日までほとんどゼロから数千羽程度。ところが31日から1月10日まで 数万羽の群れが見られました。

おかげで元旦の初日の出の会は最高! でも11日以降は まだだめ……

きびしい狩猟圧が緩和されたため スズガモ君たち保護区の外でお食事中と よい方に解釈して下さい。

○谷津干潟 小ピツ川等あちこちで白鳥が見られているようですが こちらにはまだ来ていません。

○年末末 セイタカシギがエサ場に来るようになりました。

○一昨年12月末に足環をつけたセグロカモメ8羽のうち 4羽までが今冬見られています。

○カワウが不忍池工事の影響でどっさり来ています(数百羽) 夕方3時~4時頃帰って行く姿が見られます。

○カモメ公園(福栄4丁目)で 夕方5時過ぎ コミミズグが飛ぶのがよく見られるようです。

○1月22日(日) タゲリが2羽本土にいるのが見られました。

○観察舎芝生横のトウネズミモチの並木に一週間ほどツグミの大群が来ていました 1月17日には60羽以上が集まり まっ黒なフンがあちこちに。でも18日以降はほとんど来ていません すっかり食べつくしてしまったのでしょうか。

○大雪の中の小鳥たちのために エサを出してやりました。 スズメ ツグミ キジバト ハクセキレイなどが集まっていました。(蓮尾純子)

一会員発送簿のコンピュータ処理について (お知らせとお願い)

パソコンのおもちゃ(?) NEC社製PC-6001を手に入れて半年あまり 手頃なプログラムを見つけたので ちょっと手直しをして 会報の発送簿兼住所録をコンピュータ処理することにしました。

安い機種なのでカナ書きしかできません。 発送については 今回からプリンター(セイコーM60P)で打ち出したものを使用します。

次回には 会員名簿を同封する予定です。 -お願い-

漢字を無理にカナ読みにしたため あるいはタイプの間違ひのため ミスがあるかもしれません。

あなたのオリジナル記録を一枚同封しましたので もし間違いや疑問の点がありましたら 下記までお知らせ下さいと幸いです。 市川市福栄4-22-11 蓮尾まで

なお 発送簿には ユウビン№ ジュウシヨ ナマエ カイイン№が

住所録には ナマエ ユウビン№ ジュウシヨ 電話番号が収録されます。 ○コンピュータ処理のために蓮尾嘉彪氏に大変ご苦勞をおかけしました(遊んでいたという声あり) 感謝の意を表したいと思えます ありがとうございます。(事務局)

No. 1
 <ナマエ> ナマエヨウジクワクワ
 <カイヒ> 6001J47
 <17ビ> No. 272-01
 <シ> ユウシヨ イチカワシ フクイ 4-22-11
 <テンノウ> 0473-97-9046
 <ケイレキ> 35.01から ¥2500

【オリジナル記録の見方】

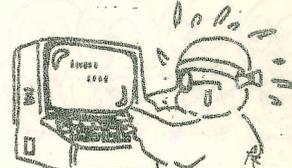
ナマエ: 兄弟2人の連記は字数の都合で 中止させていただきました。

カイヒ: 6001S 6001F
 ・6001J40など

初め4ケタの数字は会費切れの年月(上の例では60年1月) アルファベットは最終払い時の会員の種別(S:賛助 F:普通 J:ジュニア) Jの場合はあとに生まれた年(学年を参考としたので 1年ずれていることがあります)が続いています。

ジュウシヨ: 35文字(電報と同じ方法)しか入らないので 一部を省略した場合があります。

ケイレキ: 入会年月日と これまでに納入していただいた入金額合計の記録です。



鳥のおかしむかし

山鳩の嘆き

昔々ひどい凶作の年のこと 父親は山へ行って 何か食べるものを探しに出かけた。 母親は夫のためにと 麦を火にかけ粉にしたものを子供に持たせた。

途中の小川を渡る時 粉がすこしこぼれたすると 川の雑魚どもが浮いてきて それを食った。 子供はおもしろいのでわざと少しこぼすと 雑魚がもやもやとわいてきて 食うおもしろがって また少し また少しとこぼしているうちに 気がつくと粉はほんの一口か二口になってしまった。



子供はおどろきあわてて 父の所へいそいだが 時すでに遅く父親は餓死していた。 子供はこれを悔やみ悲しみのあまり死んで山鳩になった。

そして そのことを思い出しては テデコーケー(父よ粉を食え) アッパーターター(母が喰いた) と鳴くのだそうです。(東北地方民話)

行事案内

誰でも自由に参加できます。

○新浜自然観察会

2月12日(日) 3月11日(日)

集合：東西線行徳駅前 午前10時

解散：野鳥観察舎午後2時半頃

わずかに残されている 妙典地区の湿地や保護区で カモ サギ カモメ バンなどの水鳥を中心に動植物の観察をします。

(午前中は江戸川放水路妙典の観察をして 午後は保護区の中に入れていただく予定)

参加費： (小中学生は無料)

お弁当 水筒 雨具 ボウシをおおすれなら

○定例 園内自然観察会 (観察舎主催)

2月5日 19日 3月4日 18日

集合：野鳥観察舎前午後1時半

解散： " " 午後4時頃

園内の観察路を 約3.5km歩きます。 歩きやすい服装 はきものでどうぞ。

○冬の夕暮れ探鳥会

2月26日(日) 3月25日(日)

午後3時半観察舎前集合 解散5時頃

夕暮れのせまった空を一羽また一羽と鳥たちが ねぐらに帰って行きます 夜好性の鳥はこれからお出かけです 運がよければコミミズクが....

防寒の用意はしっかりと。

○土曜会(仮称)へどうぞ

2月18日(土) 3月17日(土)

毎月第3土曜日 午後1時半~4時まで

友の会の諸雑務(雑役?)を担当されている大関さんを囲んで おしゃべりや手芸その他諸々の活動をやろうという会です。

当面は好評のマスコット作りをやる予定ですが 楽しみながら観察舎を有効に活用して行ければと思います。

ちょっとのぞきにいらしてください。



一事務局より

今年度の会費を 納めて下さい。 一般会員1000円 賛助会員2000円以上 ジュニア会員(小中高校生)500円です。 観察舎でお金をあずかってもらえます。

その他 絵はがき シール 鳥のマスコット 鳥の図鑑なども販売しています。

'84年版 カレンダー 1冊1,000 会員特価 800

一編集後(荒)記 4/9の観察会ではセウカシギが21羽も観察されました。その多くが江戸川放水路干潟で観察された。妙典の埋め立てが進んでいます。湿地をぜひ残したい! <はるたか>

○前号に続き 増ページです。これを定例化したいと思います。

皆さんからの投書 感想 創作童話 詩 ネット 表紙絵などお待ちしています。(遠)

すずがも通信	発行人 亀谷 栄	[Redacted]
NO. 25	事務局 鈴木 有と	
1984年2月1日発行	編集人 田久保 晴孝	
振替 仙台 6129	新妻 途夫	
年会費 1000円	行徳野鳥観察舎	

〒272-0111 市川市栄4-22-1 TEL 0473(97)9046